

館　報
玄洋145号
令和８年１０月１日
発　行
一般社団法人
玄洋社記念館
郵便番号 814-0013
福岡市早良区藤崎2丁目
12番11号
E-mail：genyosha.kinenan1@gmail.com

玄洋社憲則

第一条　皇室ヲ敬戴ス可シ
第二条　本国ヲ愛重ス可シ
第三条　人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容

▽理事長就任・退任挨拶＝1面
▽「広田弘毅先生顕彰祭」斎行報告＝2面
▽博物館見学報告・各月の銘言＝3面
▽館報バックナンバー来島恒喜小伝＝4・5面
▽賛助会員芳名録＝6面

一般社団法人玄洋社記念館

新理事長に 阿部 真之助 氏

一般社団法人玄洋社記念館は今年六月に理事会を開き、退任された妹尾俊見理事長の後任の理事長に阿部真之助理事を全会一致で選出した。


阿部 真之助

理事長就任のご挨拶

この度、妹尾俊見理事長のご勇退にあたり、第六代玄洋社記念館理事長に就任いたしました、阿部真之助でございます。

我が郷土である福岡に脈々と受け継がれてきた玄洋社の精神を、玄洋社先賢の方々の顕彰祭等を通じて、次世代に伝承していかなければならないと痛切に感じています。

しかしながら我々を取り巻く現状は、多様化が著しく進展し、人それぞれの価値観やニーズが読みにくくなっています。だからこそ、玄洋社先賢が歩んできた道や信念こそが、国家の将来を正しい方向に導いて行ってくれると信じて已みません。

これからの国家の恒久的繁栄をもたらすものは、若者の健全育成であるということが自明の理でありますので、今後、多角的に玄洋社記念館の活動を進めていこうと考えております。

皆様におかれましては何卒今までと変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げ、理事長就任のご挨拶といたします。

一般社団法人 玄洋社記念館
理事長　阿部真之助

阿部真之助新理事長経歴

昭和39年５月福岡市生まれ。母方矢野家は玄洋社創設者 頭山満先生の後援者であった矢野喜平次の流れを汲む、旧『玉の井酒造』現『寒北斗酒造』である。

福岡市立長尾小学校、友泉中学校、福岡県立修猷館高等学校、九州大学法学部法律学科を卒業し、平成15年に福岡市議会議員に初当選し以後６期連続当選、平成27年に一般社団法人玄洋社記念館理事に就任。

令和元年には、第73代福岡市議会議長に就任。また、同年に玄洋社に政治を学ぶ議員の会会長に就任。

令和８年に第６代玄洋社記念館理事長に就任。

理事長退任のご挨拶


妹尾俊見

このたび、一般社団法人玄洋社記念館の理事長を退任することとなりました。

顧みますと、在任中は、理事の皆様をはじめ、賛助会員の皆様、関係各位から多大なるご理解とご支援を賜り、今日まで務めることができましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

玄洋社記念館は、先達が歩んだ歴史と、その志を後世に伝えるという大切な使命を担っております。

そのことを思うとき、私は、玄洋社最後の社長を務め、また福岡市長として郷土の発展に尽くされた進藤一馬先生の御句を思い起こします。

「桜花惜しむ
大和心のうるわしや
とわに匂わん　花の心は」

桜の花を惜しむ心、そして、その花の心を永く残そうとする思いは、まさに歴史を後世に伝える心にも通じるものではないかと思います。

人の世は移り変わり、時代もまた大きく変わってまいります。

しかし、先人が残した志や、その歩みから私たちが学ぶべきものまで失われてはなりません。

玄洋社の先達が、郷土福岡を思い、国家と社会の行く末を憂い、それぞれの信念をもって歩んだ歴史を、後世の人々に正しく伝えていくことは、私たちに課せられた大切な責務であります。

私自身、理事長として微力ではございましたが、先人の歩みを次の世代へつなぐことを念頭に、記念館の発展に努めてまいりました。力の及ばぬところも多々ございましたが、皆様方の温かいお力添えに支えられ、今日この日を迎えることができましたことは、何よりの喜びであります。

これからは一会員として、玄洋社記念館の歩みを見守り、その発展のために微力を尽くしてまいりたいと存じます。

進藤先生の御句にある「とわに匂わん　花の心は」という言葉のように、玄洋社の先達が残した志が、時代を超えて後世の人々の心に受け継がれていくことを、心より願っております。

最後になりましたが、これまでお支えいただきました皆様に、改めまして深甚なる感謝を申し上げます。

あわせて、玄洋社記念館のますますの発展と、後任理事長をはじめ賛助会員の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、退任のご挨拶といたします。

長い間、本当にありがとうございました。

一般社団法人　玄洋社記念館
前理事長　妹尾俊見

広田弘毅先生
顕彰祭を斎行



護国神社敷地内に鎮座されています、広田弘毅先生銅像前にて、一般社団法人玄洋社記念館主催による顕彰祭が執り行われました。

護国神社田村宮司により、神事が始まり、玄洋社記念館の妹尾俊見理事長、明道会の山崎拓理事長、玄洋社に政治を学ぶ議員の会の阿部真之助会長、鬼木誠衆議院議員に玉串奉奠を賜り、筑前琵琶の寺田蝶美師による「広田弘毅」の献奏を奉納して頂きました。

神事終了後には、妹尾理事長から参加者の皆さんへ謝辞を述べられました。

広田弘毅先生の御生涯を顧みるとき、私どもが深く心に刻むべきものの一つは、激動の時代にあって、国家の重責を担った者として最後までその責任を受け止められた御姿であります。

先生は外交官として長く国際舞台に立ち、その後、外務大臣、内閣総理大臣を歴任されました。

しかし、昭和二十年の終戦後、極東国際軍事裁判においてA級戦犯として起訴され、死刑判決を受けられました。

そして昭和二十三年十二月二十三日、巣鴨拘置所において絞首刑が執行され、その生涯を閉じられました。

東京裁判において死刑判決を受けた七名のうち、広田先生は軍人ではなく、文官として処刑された唯一の人物でした。

裁判をめぐっては、その責任や判決の妥当性について、今日に至るまでさまざまな評価や議論があります。

しかし、そうした歴史的評価とは別に、先生が最後まで自己の立場から逃げることなく、国家の指導的立場にあった者として重い責任を引き受けようとされた姿は、私どもの心に深く残るものがあります。

「自らを弁護することよりも、国家の将来と国民の行く末を思う」。

その姿勢にこそ、広田先生の生き方の一端を見ることができるのではないでしょうか。

先生の最期をめぐって伝えられてきた数々の言葉や逸話については、史料によって確認できる範囲を大切にしなければなりません。

その上で、先生が残された生涯を静かに顧みるとき、そこには、時代の大きな波に翻弄されながらも、自らの使命と責任に向き合おうとした一人の政治家・外交官の姿があります。

私どもが顕彰祭を執り行う意義も、ここにあると考えます。

広田弘毅先生の御生涯を美化することでも、歴史上の評価を一面的に定めることでもありません。

激動の昭和史の中で先生が果たされた役割と、その歩みの全体を静かに見つめ、そこから何を学び、何を後世に伝えるべきかを考えることこそ、先人を顕彰する者の務めであると存じます。

先生の御遺徳を偲び、その御生涯を後世に正しく伝えていくことを、ここに改めて誓うものであります。

福岡が生んだ硬骨の政治家　**11/14(土)**

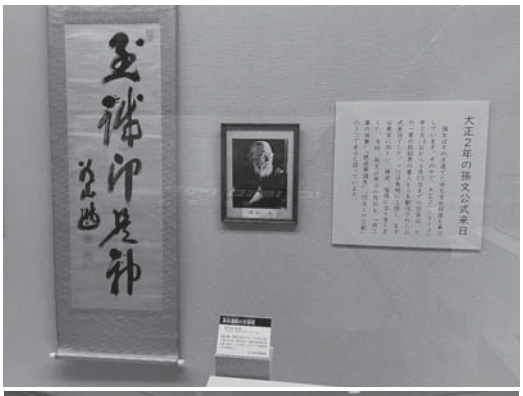
中野正剛先生 顕彰祭のご案内



「中野正剛先生顕彰祭」を次の通り斎行いたします。
どなたでも参加出来ます。玄洋社記念館主催。

日　時：令和８年11月14日（土）11時開始
場　所：鳥飼八幡宮境内「中野正剛先生銅像」前
（福岡市中央区今川２丁目１―17）
なお、雨天時は中止といたします。
参加費：１，０００円

福岡市博物館企画展
「アジアの激動と福岡ゆかりの人びと」を見学









福岡市博物館にて、企画展「アジアの激動と福岡ゆかりの人びと」が開催されました。

今回は日本とも関わりの深い孫文先生が取り上げられ、玄洋社記念館所蔵の書物や写真など、多くの資料が展示に活用されました。

昨年は、孫文先生（一八六六～一九二五年）の没後百年にあたりました。

孫文先生は二十代で革命運動に身を投じ、一九一一年の辛亥革命を経て、遺書に「革命尚ホ未ダ成功スルニ至ラズ」との言葉を遺して世を去るまで、活動を続けました。

その活動を支えた日本人の中には、福岡ゆかりの人々もいました。

頭山満や平岡浩太郎ら玄洋社の人々は、資金援助や人脈の提供を通じて孫文先生を支え、日本での亡命生活や革命運動を助けました。

私たちも妹尾理事長とともに、博物館職員の方の説明を伺いながら展示を見学しました。

玄洋社記念館が所蔵する資料を通じて、孫文先生と福岡ゆかりの人々との関わりを改めて知る、貴重な機会となりました。

今後も、所蔵資料を多くの方にご覧いただける機会が生まれることを願っています。

各月の銘言

〔九月の銘言〕

月成功太郎

丈夫一旦志を決す。豈中途にして止むべけんや。

来島恒喜が、大隈外相を襲撃する計画を福岡で立案した時は月成功太郎と協議したのであるが、決行間近になると来島は最初は月成と一緒に実行に移す計画であったが、自分は独身であるが、月成は妻子や老母が居るので、家族を悲劇に巻き込みたくなく同情心から「一大臣を撃つに何の二人の力がいろうか、君は前途有為の土だから今回の事は自分一人でやるから、君は国家の為に後事をお願いしたい」と云い出した時の月成の発言で、結局二手に別れて襲撃することになったのであるが、大隈は来島が待っていた方へ来たのである。

〔十月の銘言〕

安川健次郎

うちは土地ブローカーじゃないから、あんまり高い値をつけるなよ

西鉄が本社移転のため、安川家の別邸（現在の西鉄グランドホテル）を候補としました。当時の社長・村上功児氏は、弟の安川第五郎氏に交渉を依頼しましたが、そのとき兄・健次郎氏が出した条件がこの言葉です。

健次郎氏は、利益第一ではなく、道義や誇りを重んじる姿勢を示しました。土地や不動産を金儲けの道具としか考えない現代の風潮に対し、先人の心意気を学ぶべきだと教えてくれる一言です。

館報バックナンバー

来島 恒喜小伝

風蕭々

<3>

柳 猛直

憲法と条約改正②

伊藤の構想の中にあった憲法はドイツ流の絶対主義の憲法であった。明治二十年夏、伊藤は井上毅（熊本県出身）伊東巳代治（長崎県）金子堅太郎（福岡県）の三人の腹心の部下とともに神奈川県夏島の別荘にこもって憲法の草案づくりを進めた。

当時、伊藤は最高の実力者であったから、この憲法グループは伊藤を大天狗、井上を天狗、伊東、金子を小天狗と呼んだ。

夏島の憲法づくりは伊藤のことだから〝酔うては枕す美人のひざ〟で、のんびりやっているのだろうというので早速、漫画のタネになる。

伊藤博文と三人の部下たちによってまとめられた憲法草案は枢密院で審議が行われるのだが草案に対するさまざまな批判が出た。

その多くは既に弾圧されて鳴りをひそめてしまった自由民権運動への配慮であった。

強権によって鎮圧されたとはいえ、あれだけ激しかった自由民権への願望を無視することは、ある意味では危険であると思われたのだが実際には人民の権利を認めることよりも、そうした願望、あるいは反発を、いかに暴遏（ぼうあつ＝防ぎ止める）するかに意が注がれた。こうして「大日本帝国憲法」は成立する。

明治二十二年（一八八九年）二月十一日、宮中正殿の大広間で憲法発布の式典が挙行された。憲法の原文を天皇の手から受け取った黒田清隆は、さまざまの毀誉褒貶の中で、この栄誉をになうのだが心境は複雑であった。

彼はもともと立憲主義には反対であったし将来、重くのしかかってくる問題（議会、条約改正など）が当然、予想された。その上、この朝、突発した事故が彼の心を暗くしていた。

この日の朝、文部大臣・森有礼（ありのり）が刺客・西野文太郎に襲われていた。

森は式典に参列するため大礼服を着けて玄関へ、出刃包丁を持った西野が「国賊っ！」と叫んで飛びかかったのだ。

脇腹を刺されて倒れたところを、止めを刺そうとした西野は護衛の剣客に斬り倒されて絶命する。

暗殺の動機は欧化主義者であった森が伊勢神宮に参拝した時、ステッキで神前の御簾（みす）をあげたという新聞記事を見て憤慨したのだという。

古島一雄の「一老政治家の回想」の中で、こんな一コマが出ている。

「森（有礼）は一種の人物であるが、いわゆるハイカラで細君と契約で結婚したなどの噂もあったが、それはともかくとして伊勢大廟へ参拝した時、ステッキで御簾を上げたということが問題になり殺された。ところがその記事を東京電報に書いたのは実は僕なのだ」

西野は長州の人で長州の大先輩・三浦梧楼の書生だったので暗殺事件のあと警察では三浦の内偵を続けていたが、これは無関係であったようだ。

古島一雄は事件の直後、森文相の官邸に取材に行っている。古島は憲法発布のこの日、創刊された新聞「日本」の記者であった。

官邸では廊下に転がっていた西野文太郎の死体を見ている。後ろから肩口に一太刀浴びせられて絶命していたという。

森は西野に刺された時、息はあったが翌朝、死亡した。

彼は薩摩の出身で英米に留学して多いに欧化主義を鼓吹した人物で、廃刀令、鹿鳴館の舞踏会は彼の献策であったといわれる。

日本人の人種改良のため日本男子の西洋婦人との結婚をすすめたという噂もある。

伊勢神宮の一件の真偽のほどはわからないが当時の欧化主義者の中でも先端をいく人であった。

憲法発布の大赦令で福島事件、飯田事件、大阪事件、保安条例違反など に連座して有罪判決を受けていた人々は青天白日の身となった。

河野広中、大井憲太郎、小林樟雄、磯山清兵衛、片岡健吉、星亨、大石正巳等で、のちに政界で活躍する人も多い。

憲法発布のあとに、ひかえていたのは条約改正問題であった。

井上馨外相が屈辱外交で叩かれ鹿鳴館のバカ騒ぎで失脚したあと大隈重信が外相として登場してくる。

大隈は伊藤内閣のあとの黒田清隆内閣でも引き続き外務大臣をつとめて条約改正に取り組むことになる。

大隈は長崎で英学を学んだが外国留学の経験はなかった。明治政府の要人は大半が外遊ないし外国留学の経験があったが、この人たちに共通していたことは欧米人を異常に畏敬あるいは畏怖することであった。

もともと尊攘の志士として出発した人が多かったが幕末の攘夷思想というものは、まことに観念的なものであり、幕府へのいやがらせに過ぎない面もあって、彼らが欧米の文明に実際に接した時、日本との格差の大きいのに驚き萎縮せざるを得なかった。その点、幸か不幸か大隈にはそんな経験はなかった。

また、明治政府の高官は、おおむね下級武士の出身であったが大隈の家は佐賀藩で四百数十石という上級の武士であった。もうひとつ、小さなことだが当時の日本人が外国人に比べて概して体格が貧弱であったのにくらべて大隈は背も高く堂々としていた。

彼は外国人と対等に渡り合うことの出来た数少ない政治家の一人であった。

明治政府の高官の中には当時のイギリス公使パークスに頭ごなしに、やっつけられて無念の涙をのんだ人も多かったが、大隈はパークスと猛烈に渡り合って譲らなかった。

以来さすがのパークスも大隈には一目置くようになっていた。

大隈は自信家であったから自説を主張すれば頑として譲らぬところがあり傲岸不遜と批判されたこともあったくらいだから条約改正については大隈のそうした特質が発揮されることを期待して黒田総理も「大隈さん何ん事も、よかごと頼みます」と委せ切っていた。

大隈の条約改正案は極秘にされ各国別に内々、交渉を進めていると伝えられて御用新聞は「今度の条約案は相当強硬なものだ」などと書き立てた。

井上が無理な欧化政策をとって内外の失笑を買ったのに対して大隈はその逆手をとって対外強硬策をとりはじめた。

これまで黙認されていた外国人の居留地外における家屋の所有や居住、旅行などを、びしびし取り締って違反者を処罰した。

これは現行条約では不便だということを外国人に痛感させて、条約改正に持ち込もうという作戦であった。

それはよかったのだが、極秘のはずの大隈案なるものが、すっぱ抜かれて俄然、ハチの巣をつついたような騒ぎになる。

二十二年四月、イギリスの「タイムス」がロイター電でスクープした改正案の内容が日本の新聞にも転載されたのである。「タイムス」のスクープを日本の新聞に流したのは外務省の翻訳局長・小村寿太郎であったといわれている。

小村は、もと日向（宮崎県）飫肥藩の出身でアメリカのハーバード大学に留学して外務省に入った秀才であった。

彼は後年、日露戦争当時の外務大臣として秘密外交と世論操作の両刀を巧みに使った人だが、ここでも既にその特質があらわれていた。

大隈案は井上案よりも日本にとって、はるかに有利な案であるという肯定論もあったが、「いや、そんなことはない。国辱的条約という意味では五十歩百歩である」という反対論が強かった。

井上案では治外法権の撤廃は当面は棚上げだったが大隈案では年を切って撤廃することになっている。

裁判所に外国人法官を採用する件は井上案では各級裁判所に外人判事を置くことになっていたが、大隈案では大審院判事だけとなっている。（これが一番問題になった）

※次号「風蕭々」4を掲載します。

お知らせ

現在、全国各地に「玄洋社」を名乗る政治団体がありますが、明治十二年に福岡で創立された玄洋社とは関係ありません。

玄洋社は終戦後、占領軍の命令により解散させられました。その後、名称の不正利用を防ぐため、昭和五十一年二月に政治団体「玄洋社」（現代表・阿部真之助）として届け出ましたが、政治活動は行っておりません。

先覚者たちの業績と玄洋社の精神を後世に伝えるため、昭和五十三年十一月に玄洋社記念館を開館しました。運営は有志の皆様の賛助金に支えられています。今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

建設コンサルタンツ
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理
ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社
会長　花田勲
代表取締役社長　児玉和久
本社　福岡市博多区東比恵三丁目二四―九　〒八一二・〇〇七　電話（〇九二）四八一―三一〇〇
東京支社　東京都杉並区高円寺南一―二三―一　〒一六六・〇〇三　電話（〇三）五三七八―五八〇〇
営業所　千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

造園・緑化　自然とコミュニケーション
株式会社　別府梢風園
代表取締役社長　別府大輔
BEPPU
本社　〒813-0025 福岡市東区青葉一丁目六―一五三
TEL〇九二―六九一―〇六七八(代)
FAX〇九二―六九一―四五五四
E-mail：info@shoutien.co.jp

株式会社　海喜
代表取締役　津田美絵
海産物一般・ユニフォーム一般
福岡市早良区藤崎2丁目12番17号
TEL（092）831-7711
FAX（092）841-1850

賛助会員芳名録

令和７年度

9月10日受付分まで（順不同・敬称略）

▼法人・団体の部

【三万円】

㈱アキラホールディングス（福岡市）
（宗）節信院（福岡市）
警固神社（福岡市）
博多港管理㈱（福岡市）
太宰府天満宮（太宰府市）
（学）東海大学（東京都）
福岡縣護国神社（福岡市）
平野神社（福岡市）
㈱理創（福岡市）
鳥飼八幡宮（福岡市）
㈱オキ・ホールディングス（市川市）
（医）原土井病院（福岡市）

▼個人の部

【三万円】

妹尾　俊見（福岡市）
上田　藤兵衛（京都市）

【二万円】

大江田　信（太宰府市）
花田　勲（福島県）
進藤　玄（東京都）
縄田　智行（福岡市）
吉村　剛太郎（福岡市）

【一万円】

木下　隆（福岡市）
山城　直之（福岡市）
鬼木　誠（福岡市）
岳　康宏（福岡市）
山崎　拓（福岡市）
渕上　綾子（宗像市）
國松　誠（藤沢市）
櫻木　嵩士（阿南市）
谷本　憲彦（広島市）
塚田　征二（福岡市）
平山　康樹（春日市）
山座　和基（福岡市）
安川　重臣（福岡市）
永島　英也（福岡市）
横田　進太（福岡市）
皆川　明彦（さいたま市）
岩崎　成敏（福岡市）
吉浦　真知子（福岡市）
金谷　美保（前橋市）
戸髙　有基（津久見市）
坂上　英雄（大阪市）
山内　圭司（福岡市）
柴田　文恵（福岡市）
秋吉　謙一（久留米市）
小野　勇夫（福岡市）
小柳　政則（福岡市）
松田　元信（東近江市）
松野尾　英彦（北九州市）
上杉　清文（富士市）
生武　治（福岡市）
西口　英世（川越市）
西村　司（福岡市）
西本　潤也（福岡市）
草野　和子（松戸市）
谷井　眞喜男（福岡市）
長岡　聖司（福岡市）
堤田　智（飯塚市）
田村　豊彦（福岡市）
頭山太郎・尚子（東京都）
二之湯　智（京都市）
梅本　真央（福岡市）
箱田　満輔（東京都）
武田　熙（さいたま市）
福田　明彦（福岡市）
平湯　芳裕（福岡市）
豊沢　猛（福岡市）
林田　正統（筑紫野市）
進藤　宏（東京都）
山村　賢三（太宰府市）
寺田　蝶美（福岡市）
宇野　秀史（福岡市）
塚本　哲（川越市）
釘宮　淳行（福岡市）
田中　悠樹（長野市）
後藤　源之（福岡市）
川上　晋平（福岡市）
打越　基安（福岡市）
伊藤　嘉人（福岡市）
平畑　雅博（福岡市）
阿部　真之助（福岡市）
今林　ひであき（福岡市）
大原　弥寿男（福岡市）
大森　一馬（福岡市）
津田　信太郎（福岡市）
川上　陽平（福岡市）
調　崇史（福岡市）
堤田　寛（福岡市）
鬼塚　昌宏（福岡市）
稲員　稔夫（福岡市）
とみながひろゆき（福岡市）
淀川　幸二郎（福岡市）
もろくま　英文（福岡市）
おばた　英達（福岡市）
福田　まもる（福岡市）
中島　まさひろ（福岡市）
藤野　哲司（福岡市）
新開　ゆうじ（福岡市）
坂口　よしまさ（福岡市）

【二千円】

川村　久美子（北九州市）

お礼の言葉

令和七年度賛助会費の納入を賜り誠にありがとうございました。今後とも、ご指導、ご鞭撻を、どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

玄洋社記念館ホームページ

https://genyosha.jp

館報のバックナンバーを掲載!!

令和八年度　会費納入のお願い

賛助会員の皆様には、日頃より玄洋社記念館の活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、玄洋社記念館は四月一日から令和八年度分の賛助会費の受け付けを始めさせて頂きます。

会員の皆様には出費多端の折、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力をお願い申し上げます。

賛助会費の受け付け要領は次の通りです。

【賛助会費の額】

▽個人会費＝一口一万円
▽法人・団体会員＝一口三万円

【振込先】

【郵便振込】
口座番号
01770～
1～20738

【銀行振込】
西日本シティ銀行
赤坂門支店　普通預金
口座番号
0740047

宛名はいずれも
「一般社団法人　玄洋社記念館」です。

・賛助会員の皆様へは、毎年「玄洋社カレンダー」をお届けしております。会員以外の方にも、ご希望に応じて一部三千円（送料込）でお分けいたします。

■広告掲載のお願い

広告枠は、記念館の活動を広く支えていただく大切な力となります。ぜひ、賛助会員としてのご支援とあわせて、広告掲載へのご協賛をお願い申し上げます。

広　告　枠：1枠 30,000円

広告掲載は玄洋社記念館事務局へご連絡ください。